

伸びろ！希望の芽

苗木を植え付けてから
出荷までの流れを紹介します

植付け直後



1年目



3年目



約30年後



3年目
(拡大)



出荷



苗木の育成は
最初の1年が最重要！
苗木は非常にデリケート！
主幹が病気の被害を受けると
回復不能に陥る場合もあります
植え付け1年目には10回以上も
消毒を行わなければなりません

3年目には出荷可能な
立派なぶどうが実ります
しかし、収穫量は
ごく僅か…

産

地

の

底

力

雪害からの再挑戦 「おいしい!」のために



ぶどうの苗木



希望の芽

山梨県は、全国有数の果樹生産地として知られており、特に峡東地域は、県内のぶどう・ももの収穫量の約8割を担っています。露地栽培だけでなく、ハウスの栽培も盛んであり、本県の果樹生産を支えています。

しかし、平成26年2月中旬、記録的な豪雪により、多くの農業用ハウスが倒壊しました。ここでは、再起に向けた農家さんの取り組みを紹介します。

雪害から数ヶ月が経った今も尚、潰れたままのハウスを目にしますが、そうした中、早々にハウスを撤去したぶどう農家さんもいました。ハウス撤去を行った農家さんとお話を伺ったところ、過酷な撤去作業だけでなく、ビニール・鉄・パイプ・ぶどう棚の針金・杭など、大量の廃棄物処理にも大変苦労されたそうです。



写真:ハウスの倒壊状況

ハウス撤去後は、すぐに苗木の植え付けを行いました。これによって、出荷までのタイムロスを最小限に抑えています。現在、ハウスの再建に向けた取り組みを進めています。

あす 未来への第一歩

ハウス倒壊の原因は、想像を絶する短時間での積雪と、大量の雪がハウスの谷部分に偏ることなどが、パイプの強度を越える荷重となったものと考えられます。

これらを克服するために、パイプなどによる補強、雪が落ちやすい(屋根勾配が急な)ハウス形状の重要性が再認識されました。

倒壊を免れた一部のハウスでは、天井部のアーチパイプをX状の補強支柱で支え、屋根の強度を増加させていました。また、重みで支柱が地面に埋まらないよう、支柱の下に板を敷くなどの対応をしていました。

今回の被害から得た教訓をもとに、再建に向けて、多くの農家さんが様々な工夫を凝らしています。

「『おいしい』『ぶどうを届けるために、産地の底力で生産量日本一の座を守り続けます』、と農家さんは意気込んでいます。」